

# いま、なぜジャーナリズム教育か

山田健太 ◆専修大学教授  
やまだ けんた

## ジャーナリズムの危機

2019年初頭現在、日本の〈言論〉状況は危機的だ。すべての議論や検証の基本である公文書の改竄、隠蔽、破棄はとどまるところを知らず、長年にわたる国家統計の杜撰な処理も次々と明らかになっている。いまや国会の議論自体が虚構の上に行われているといってもよい事態だ。にもかかわらず、こうしたいわば国家犯罪におおよそだれも責任が問われることなく、政治家はさらにこの底なし沼をすっぱりと覆い隠さんとするばかり

が、市民社会で、行政組織のなかで、そしてメディア内部でさえ蔓延しているということになる。

メディアと市民の関係も大きく変化してきた。とりわけ70年代以降おおよそ10年ごとに、市民からみたマスメディアは、疑問↓批判↓否定↓無用↓排斥と、その否定色を一段と強めて今日に至っている。こうしたメディアを取り巻く状況にあって、言論の自由の制度保障と健全なジャーナリズム活動がほぼ軌を一にして、揺らぎ弱体化し続けてきているわけだ。

もちろん、技術の進歩を否定するものではないし、インターネットをはじめとするデジタル化が市民社会にもたらした恩恵はあまたある。しかし一方で、これまでアナログのマスメディア、とりわけ紙メディアが支えていた社会全体の教養あるいは緩やかな合意の形成のための言論公共空間は、確実に縮小しつつあるのが2019年の「いま」ということになろう。

に、重要な会議の議事録は採るに及ばずと閣議決定し、自らの強弁を言論の自由として正当化する毎日である。

一方で、表現する側も問題山積だ。炎上画像・動画テロと称されるような悪ふざけの投稿がSNS上で拡散し社会問題化したり、在日コリアンや沖縄に対するヘイトスピーチも、攻撃対象を変えながら収まる気配がない。かつての悪戯は出来心であったり、迷惑行為の部類であったが、いまや確信犯であり犯罪類似行為そのものであることが決定的に異なる。差別言動に対する閾値あるいは精神的境界が大きく下がり、言論の自由と自由な

言論の違いが全く顧みられない事態になっているといえよう。

インターネットによって多様な価値観の世界中と繋がっているはずが、現実には気の合う狭い範囲の仲間との表層的な繋がりのなかで自己を正当化し、異論を排することに熱心だ。こうした状況は一般市民のなかにも、さらには政治の世界のなかでも起こっていて、本来であれば謝罪や反省をすべき加害者側が、逆ギレして暴力を振るったり、質問者を罵倒したり見下すことで、議論を一方向的に封殺することが一般化しつつある。そうしたなかで声が大きな者に対する「忖度」

## ジャーナリズムにフォーカス

だからといってマスメディアは過去の遺物なのか。紙を中核とする出版文化は消え去っていったよものなのか。市民全員がネットを通じて簡単に表現者足りえる時代に、プロのジャーナリストの存在とは何なのか。そこから生み出されるジャーナリズムは日本社会において必要とされているのか。すでに広く浸透しているメディア・リテラシーは十分に機能しているのか——まさにその答えが、大学に「ジャーナリズム学科」を作ることであった。

近代日本でいえば、言論報道活動の中核であった新聞にはおおよそ150年の歴史があり、はるかそれ以前から、社会的機能として「伝達する」あるいは「記録する」というメディアは歴然と存在していた。よく例に引かれるアルタミラ洞窟の壁画にしろ、中世キリスト教会の讃美歌やステンドグラスにしろ、そして軍部独裁国家における映画やラジオでも、民

主義国家におけるテレビやインターネットでも、そこには必ずメディアが存在し、情報や知識を伝えてきたのである。

この社会に欠くべからざるメディアの役割、コミュニケーションの機能は、いまここで確認するまでもなく戦前から多くの大学で学びの一領域とされてきた。とりわけ近年においては、文系・理系を問わず全国で100を優に超えるメディア系学部学科が存在し（コミュニケーション、メディア、表現、情報といった名称を学科名に冠するもの）、さらに関連科目群を有する学部学科であれば200をも超えるという（過去には『総合ジャーナリズム研究』や『新聞研究』で、主として文系のマスコミ・ジャーナリズム関連の講座の一覧が掲載されてきた）。

具体的には東京圏だけでも、歴史ある上智大学文学部新聞学科をはじめ、戦後設立された日本大学法学部新聞学科、研究所組織をベースにしている慶應義塾大学、早稲田大学、東京大学、社会学部系列にある法政大学、立教大学、東洋大学、東海大学など、様々な形態でジャー

ナリズム教育は実践されてきた。かつて

は、新聞・報道・ジャーナリズムであり、出版を含めた紙メディアを中核に、テレビ・ラジオを含めた言論報道活動が主要な教育・研究領域であった時期も見られるが、むしろ近年ではより広範なメディア研究が主流になってきている。

こうしたメディア論の広がりの方で、伝統的なジャーナリズム研究が活性化しているかといえば、必ずしも肯定できない事態が進行している。本誌『出版ニュース』の休刊自体がその象徴であるが、『新聞経営』『総合ジャーナリズム研究』がすでに姿を消し、『民放』も月刊から隔月刊になり、フジテレビから刊行されていた『アウラ』もすでにない。よく総合月刊誌がなくなり、論壇が消えるという話が言われるが、その少し前を行く形でメディア研究誌・批評誌が社会から後退を余儀なくされているのである。まさにこれこそが、ジャーナリズム希薄化の一現象であり、それは民主主義社会の危機であるという認識が必要ではないだろうか。

秀な兼任講師の力を借りている。

本学科特徴の第1は「現場感」である。これは、理論と実務の融合ともいえるし、産学協同と呼んでもよいかもしれない。その肝は、「いま」を常に意識し、社会に対する広い関心をもつこと、多様な価値観を学び豊かな想像力を育むこと、そしてこうした「知」を自らの力で消化・整理し、自らの言葉でコミュニケーションできる力を獲得することを目指している。それがまさに、今日のフィルターバブルを超え、社会の分断を解消する王道に違いないし、ジャーナリズム学が、いまを生き、いまを知るための学問であることとつながっている。

たとえば、「○○ジャーナリズム論」と称するメディア関連企業との協力講座を12科目開設する。具体的には、毎日新聞・国際、読売新聞・政治、中日新聞・スポーツ、講談社・雑誌、日本写真家協会・フォト（写真）などがある。ここではたとえば、国際報道それ自体を学ぶだけではなく、その前提となる当該国の歴史・文化・社会状況を概観し、それらを

海外では、イギリスやアメリカをはじめ、多くの国で大学学部レベルのジャーナリズム学士（Bachelor of Journalism）

が一般的ななかで、日本においては新聞学、メディア学、情報学、コミュニケーション学などがあるものの、まだまだジャーナリズム学は希少だ。それは、社会に学問としてのジャーナリズム学が確立していないとともに、市民社会自体にジャーナリズムそのものが根づいていないこと、この反映と言えるかもしれない。

それゆえに、専修大学では「ジャーナリズム学士」（正確には「学士（ジャーナリズム学）」を付与することとし、改めてジャーナリズムにフォーカスを直したことに大きな意味がある。少し大仰というならば、民主主義社会の維持発展のためにまずはその土台を固める必要がある、その1つの足がかりが日本社会におけるジャーナリズム（あるいはジャーナリズム教育）の定着ではないかということになる。

メディアとは伝送路であり、そのネットワークが情報環境を作る。ジャーナリ

どう伝え、あるいは伝えられずにきたのかを学ぶといった仕掛けとなっている。

第2は「デジタル適応」である。先に人間臭さの重要性を説いたものの、今日において有効な表現手法として、インターネットを含む情報のデジタル処理は必須である。それは新聞でもテレビでも、そして出版においても例外はない。そうした中で、いわゆるエンジニアとかデザイナーと呼ばれる職種をカバーできる人材が、ジャーナリズムの世界はもちろん、社会一般に強く求められている。

そのために、学科学生の全員に45週（1年半）のデジタル処理・表現技術の習得のためのPC実習を必修化している。具体的に言えば、すべての学生が例外なくイラストレーター等を駆使して最適な手法によって2次元や3次元での情報表現を可能にするレベルまで底上げするとともに、表現クリエイター・デザイナーの養成をめざしたい。専門的なウェブデザインや映像表現技法や、関連する理論科目も含め「メディアプロデューサー」系科目群を構成する。

ズムは、そうしたメディア上で展開されるものであって、正しい情報、社会が知っておくべき情報を選び、伝える、人間による主体的作業である。こうしたジャーナリズムの所作をきちんと理解することによって、気楽なりついでによってデマを拡散させるのではなく、正しきを見抜く力を自らの意思で身につけ、実践しようと思う人材が育っていくことを期待しているわけだ。

## スタンダードを目指す

以下に、こうした思想の実現のためのジャーナリズム学科の教育プログラムを紹介したい。専修大学には約50年のメディア教育の歴史があり、当初の「マスコミ・ジャーナリズム講座」の時代から直近の「人文・ジャーナリズム学科」までの経験と実績を踏まえての新カリキュラムといえる。「専修J」と称するジャーナリズム系専門科目のみで、4年間に用意された科目数は107、これを専任教員15人で支えることになる（もちろん優

第3は「アーカイブ」である。学部レベルではおそらく本邦初のアーカイブ専門科目を13科目擁し（「情報文化アーカイブ」系科目群）、実習・ゼミも開講する。本稿冒頭で述べたように、まさに今日の日本社会の最大の問題の1つは、紛れもなくアーカイブの貧困さであるが、こうした専門技能を有する人材が決定的に欠けているし、そもそもその認識が社会全体に希薄だ。そのためには、専門のアーキビストを養成するとともに、一人でも多くアーカイブの必要性・重要性を理解した学生を輩出していくほかはない。

すなわち、従来の資格課程としての図書館司書、博物館学芸員も引き続き強く意識するし、こうした職種が日本の文化・教養を支えることは間違いないものの、さらにこれらを超えたアーキビストをいかに増やしていくかが大きな課題というところである。日々生み出される情報を文化資源と捉え、的確に収集・整理・管理・活用する（まさに社会全体で共有する）という作業は、民主主義社会

の基礎であるとともに、出版の社会的意義とほとんどそのままオーバーラップするものでもある。

そして第4が「特化」である。これまでのメディア系教育は、いわば広げて絞る手法を採用してきた。メディア環境全体を扱うため幅広にならざるを得なかったわけだ。これに対し、もっとも中核的なキーワードであるジャーナリズムに特化させることによって、いわば結んで開く手法を採用している。もちろん、体系全体としては歴史を意識、理論を大切にしているが、あくまでも、正しい役に立つ情報を選び取り伝えるための科目に可能な限り絞り込んでいる。それはたとえば、調査報道論、インタビュー論、メディア批評などの「ジャーナリズム」系科目群からみてとれるだろう。

さらに第5が「スポーツ」である。「スポーツインテリジェンス」系科目群には、スポーツを情報の観点から科学する環境を揃えた。ここでは劇的に進展するスポーツ分野での情報活用に着目し、データの収集・分析や活用、コーチング

いま、プロ・ジャーナリストの世界において、従来のオン・ザ・ジョブ・トレーニングは見直しの時期にある。ノンフィクションライターに象徴的なように、そもそも鍛えるための場である媒体自体が消滅してきている。あるいは、表現の自由やメディア倫理の基礎がないまま、ネット上に発信することによる日常的な問題が、結果的にジャーナリズムの弱体化に輪をかけている。そうであるならば、せめて、これらの基礎を体系的に学ぶ場を大学教育において実現するほかあるまい。しかも、従来のメディア教育の場においては、えてしてメディア批判が先行し、書籍離れ、新聞やテレビ嫌いを増殖する役割を不幸にも担ってきたともいえる側面がある。これらのアンチテーゼとして、まずはジャーナリズムの魅力、面白さ、可能性を存分に理解し、体感してもらうことが大切だ。

だからこそ、可能な限りの実社会との連携を強めることが必要だ。その1つの実践が、「現代ジャーナリズム研究機構」の設置である。学科開設に合わせるかた

等について学ぶことができる。こうしたスポーツ情報に特化する形で、専門科目を20科目目展開する例は極めて珍しからう。

そして最後の第6が「体験」である。学生は現場に行き、触れることで覚醒する。それはこれまでの教育プログラムで、沖縄で集中講義をし、東日本大震災以降は被災地を訪れることで、大きく学生が成長してきたことから明らかである。したがってこれらのプログラムを継続・強化し、沖縄ジャーナリズム論、戦争ジャーナリズム論のほか、出版・新聞・放送・映画・ネット・印刷・流通・図書館・博物館等の各種メディア機関約40社との連携のもと、独自のインターンシップを開講する。

### ジャーナリズム・リテラシーの普及をめざす

これらのカリキュラムによって、どれだけのジャーナリストを社会に送り出すつもりか、との問いがすでに寄せられている。実学というよりも、具体的な就職

ちで昨2018年10月にスタートさせ、今後は学内外のジャーナリズム教育・研究の拠点となることを期待している。そのためにも、すでに長い経験や実績を積んでいる大学や研究機関の教えを請いつつ、可能な限りの連携を強めていきたい。

あわせて、メディア企業との協同もより具体化していく予定である。その最初の形が「現代人物アーカイブズ」の運営である。すでに報道発表した通り、昨年10月に講談社から8万点近い現代人物のデータベース資料を一式寄贈いただいた。引き続き記者・編集者といったプロ・ジャーナリストの編集支援としての活用のほか、学内教育における取材手法の実践やアーカイブ活用を計画している（近日中に一般公開・利用も予定している）。

さらに学部に行先して、神田キャンパスには大学院課程も設置済みで、本19年3月には最初の卒業生を送り出す。伝統的な本の街・神田という地の利を生かし、今後は各メディア機関のリカレント

先を重視する昨今の風潮にも影響されてのことだ。幸いにも現実には、前学科において順調にプロ・ジャーナリストが育ってくれ、多くの卒業生がすでに新聞・放送・出版・ネットの現場で報道・制作活動に従事するほか、広告・営業を含めたメディア関係の就職率は過半を超えるかの状況にある。

もちろん、こうしたプロ・ジャーナリストの養成は引き続き重要なジャーナリズム教育の柱であることは間違いない。同時に、一般企業への従事者も含め広義のジャーナリストティックな思想・思考・行動規範を身につけた者が、現在のデータ改竄や内部チェックが機能しない状況を変えることにつながるものと考えている。さらに言えば、社会の構成員として、情報の真偽を見極め、多様な価値観を理解し、社会の広い分野に関心を持ち、想像力を働かせて物事の判断をできる市民を一人でも多く輩出することこそが、本学科の最大の社会的役割である。まさに、「賢い市民」が次の時代を作っていくことになると信じるからである。

教育の場としての貢献など、ジャーナリズムの強化・定着のためにやらねばならない課題は山積している。あるいは、産業としてのメディア企業の維持・発展のための産学共同研究や実践も必要だ。しかもこれらは、もはや一刻の猶予を許されない状況に直面している。

それゆえに、「いまなぜ」ではなく「いまだからこそ」ジャーナリズム教育が求められていると考えるし、奇しくもジャーナリズム学科の誕生は時代の必然であったと考えたい。そして、カタカナ「ジャーナリズム」が日本語として定着するときこそ、日本に成熟した民主主義社会が確立するときだと思おうのである。その意味で、本学科の養成目標である「情報スペシャリスト」が、特別な専門技能をもった人（スペシャリスト）でなくなることを願うわけであるが、血の通ったジャーナリズム・リテラシーが本学の教育・研究活動を通じて広がっていくことを願わずにはいられない。それがそのまま、出版文化の維持・発展にもつながっていくことと思う。

新潮社の本

装丁を悩ませた海外の純文学と哲学書……

私手がけた文芸書の多くは海外文学が多く、日本の作家さんのものは多くありません。海外文学でも純文学に属するものが多かったのでイメージするのに苦労していました。文体に踊らされて、文章の中にあるものを受け取ることができずにいたようです。日本の作家さんの装丁を行う時、内容と文体とが一つになってくるのでイメージしやすい。イメージできたら装丁の半分は以上はできたと言ってもいいでしょう。簡単ではありませんが楽しめます。あとは技術レベルの表現になっていきます。一方、私は、哲学書や人文科学関係の書籍を数多く手がけました。それらは海外の純文学ものに似ていました。哲学や人文科学系のもは書いた人の文章が、その内容の質と同等だとは限りません。内容と文体とが、ちぐはぐしているところが海外の純文学書に似ています。私の力では文章から内容を窺い知ることができなかったのです。



出版は森羅万象を対象とする

少し前に安倍首相が“森羅万象”を担当していると発言して話題になった。あなたは神か？との批判もあった。森羅万象の辞典的な意味は、宇宙間にあるあらゆる物事や現象のことである。

出版の仕事は、森羅万象を出版の対象として、出版物をつくってきた。出版物の多様性といってもよい。あらゆる分野がその対象になる可能性がある。年間8万点に及ぶ新刊をみればわかる。

別の視点からみると、図書館で使われている「日本十進分類法」は、本の分類法である。「0」から「9」の数字で大まかに分類し10の項目に分ける。総記、哲学、歴史、社会科学、自然科学、技術、産業、芸術、言語、文学となる。これに出版物をあてはめ、それを10種に区分する。まさに本とは森羅万象を出版物に仕立てたものなのだ。

したがって、多品種少量生産が出版物の特性になっている。また、この多様性が民主主義へ連動しているといえる。安倍首相が“森羅万象”を担当しているというのは言葉の実体を知らないか、すべてを統括するという傲慢さからの発言といわれてもしかたないものといわねばならない。

cover design: 島津義晴 logo type design: 須藤康子

- いま、なぜジャーナリズム教育か 専修大学ジャーナリズム学科開設にあたって 山田健太……………4
- 活字文化議員連盟「公共図書館プロジェクト」の概要と展望 地域書店と図書館の関係の再構築を目指して 太田 剛……………10
- Book Street 学校図書館 松田ユリ子……………16 言論内田 誠……………17 出版協 上野良治……………18 編集 下平尾 直……………19
- 吉田大輔のこれってどうなの？著作権 No.39 吉田大輔……………20
- Book Guide……………22
- 情報区……………26
- 出版界スコープ……………32
- 編集者の目録 No.1230 小野紗也香……………39
- 出版関係文献資料……………43
- 新聞・雑誌書評リスト……………47
- Book therapy 87 原山建郎……………48
- 書きたいテーマ・出したい本……………49
- 奈良勝司、牧野雅彦、岩下哲典、渋谷龍……………49

ノースライト 1800円  
横山秀夫 望まれて設計した新築の家。しかし、越してきたはずの家族の姿はなく、ただ一脚の椅子だけが残されていた。待望の長編ミステリー。 9781410146540 24

ここから世界が始まる トルーマン・カポーティ初期短篇集 トルーマン・カポーティ 1900円  
小川高義訳 「早熟の天才」と恐れられた作家のデビュー前の才気が進む！16歳頃から青年期にかけて執筆された14篇を収録。解説・村上春樹。 9781410150140 87

家康に訊け 加藤 廣 1600円  
日本再生への道は家康の戦略に求めるべし！「黄昏れゆく時代に光を齎す史論と、伝奇時代小説『宇都宮城血風録』。加藤廣の遺作集。 9781410131103 85

ウチらは悪くないのです。 阿川せんり 1450円  
あの、どうやら初めての彼氏というものができましたのよ。型破りな女子大生二人組が札幌の街を駆け巡る、爆笑のアンチ青春小説。 9781410135231 16

このコトバ 瀧羽麻子 1500円  
あたしたち家族はいつもいつも、レシビでつながっている。お料理で結ばれた絆再生、そして美しい魔法にみちみちた6つの物語。 9781410135233 14

アラフォー・クワイシス 「不遇の世代」に迫る危機 NHKプロデューズ現代取材班1400円  
給料が増えない、昇進できない、結婚する余裕もない。今35歳から44歳の「就職氷河期世代」が、努力しても報われない現実を追う！ 9781410135235 12

「承認欲求」の呪縛 太田 肇 780円  
「認められたい」が心身を蝕む。悪因と化す承認欲求を徹底解剖し、人間関係や成果を向上させる新提言。 9781410161080 06

新冷戦時代の超克 「持たざる国」日本の流儀 片山社秀 740円  
政治家のうまい話には嘘がある。評論家の予想はあてにならない。下り坂を転げる時代の必読書。 9781410161080 013

ドノムへの遺言 倉本 聰/確井広義 820円  
大河ドラマ降板の意外な真相から最新作「やすらぎの刻」道。まで、巨匠がすべてを語り尽くす。 9781410161080 210

日本共産党の正体 福富健一 800円  
思想、歴代トップ、資金源、危険性と問題点……増殖し続ける巨大組織を、徹底解剖！ 9781410161080 37

ペンギン・ブックス が選んだ 日本の名短篇29 ジェイ・ルービン編 3600円  
村上春樹序文 荷風、三島から現代の若手作家まで、これがいま世界で読まれるニッポンの短篇！村上春樹が全収録作を軸に日本文学を深く論じた序文70枚付き。 9781410135343 615

野の春 流転の海 第九部 宮本 輝 2100円  
自らの父をモデルにした松坂熊吉とその家族の波瀾の人生を、戦後の時代を背景に描く自伝的大河小説。全9冊でついに完結。感動の最終幕。 9781410133251 92

星夜航行 上巻 下巻 飯嶋和一 各2000円  
罪なくして徳川家を追われ、秀吉の天下統一と朝鮮出兵の暴挙に翻弄されながら屈しなかった男。一生に一度出会うかどうかの大傑作。 9781410135194 16、42 3

草薙の剣 橋本 治 1700円  
世代の異なる六人の男たちを主人公に、昭和と平成を描きつづ、日本人のこのるの百年。惜しくも急逝した作家による記念碑的作品。 9781410140611 50

山崎豊子作品 初の完全漫画化!

# 白い巨塔

舞台は、2018年、大阪。現代医療の最前線で、今、医師たちの闘いが始まる!

原作: 山崎豊子 漫画: 安藤慈朗

テレビ朝日開局60周年記念5夜連続ドラマスペシャル TVドラマ化 主演/岡田准一

第1巻発売! 月刊コミックバンチで連載中!

BUNCH COMICS 新潮社

新潮社/〒162-8711 東京都新宿区矢来町71 Tel/03-3266-5111 表示の価格には消費税が含まれておりません。



# 出版ニュース

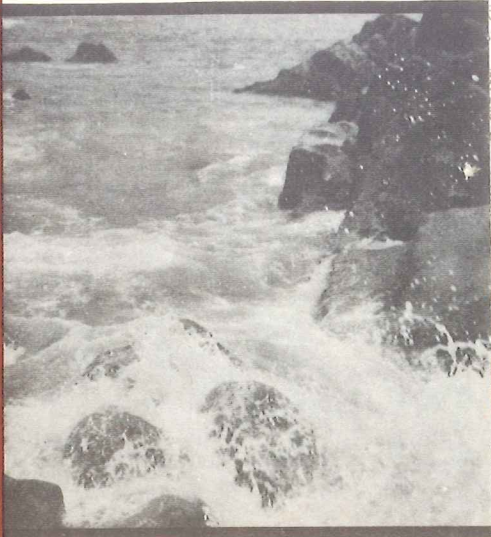
3  
中旬号  
月3回発行

出版総合誌 ISSN 0386-2003

予約募集中 / 締切・35年10月31日

## 日本現代文学全集

講談社版  
全一〇八巻



最高の文学遺産を  
最大の規模で収めた  
豪華愛蔵版！

- 今世紀を飾る究極的文学全集
- 代表的評論家5氏の責任編集
- 三代の全文学遺産を完全に収録
- 明治大正昭和の完璧な展望
- 出版史上に輝く不朽の豪華愛蔵本
- 装幀、造本とも最高水準
- 21世紀への文学の架橋：作家入門、解説、年譜等、懇切入念

編集委員 / 伊藤整・亀井詩一郎・中村光夫・平野謙・山本健吉

講談社版  
日本現代文学全集 全一〇八巻  
別巻 一巻

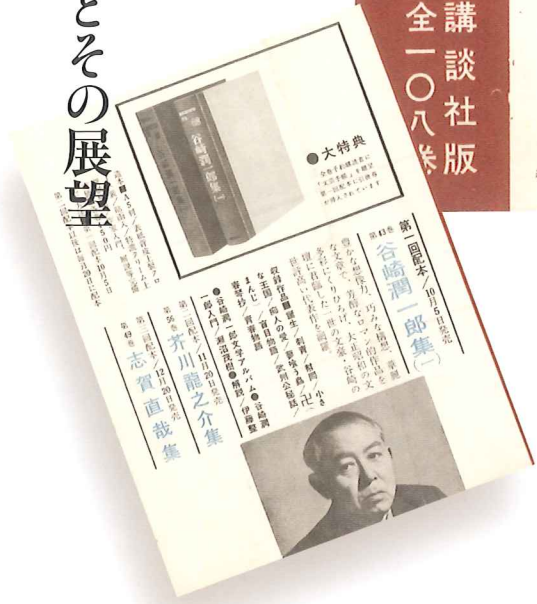
1 明治初期文学集 1 福沢諭吉・中江兆民・開倉集  
2 柳田国男集 1 36 与謝野寛・与謝野晶子・雀集  
3 葉山嘉樹・黒島伝治・徳永直集 1 73 夜野言一・高村義多・比佐氏准集  
4 74

いま、なぜジャーナリズム教育か

——山田健太

「公共図書館プロジェクト」の概要とその展望

——太田剛



【日本現代文学全集 全108巻】 講談社  
最高の文学遺産を最大の規模で収めた豪華愛蔵版！